

討 論

討論とは、表決の前に賛成か反対かの自己の意見を表明することです。

議案第 42 号 平成 30 年度加西市一般会計予算について

可決（賛成 10、反対 4）

北条鉄道交差施設整備事業では、交差施設の整備により乗客数増加となる根拠データもなく、これまでの勘によって事業を決めたといった答弁もあった。このような考え方で大切な税金は使えない。また、播磨国風土記事業について、他の文化、芸術やスポーツ等において研鑽を重ねる子供たちにも目を向けるべきで、偏った税金の使い方ではなく、市内の子供たちに平等に使うべきである。

反対



黒田秀一 議員

地域の公共施設は、行政と地域住民が協同協力して生かし、問題が出ればしっかりと話し合い、合意をつくっていくことこそが極めて大事であり、早急に結論を出すなど、いたずらにその事業を急ぐべきものではない。それは結局、地域社会の弱体化を進めてしまう。現在の事業の進め方は残念である。この立場から、幼稚園の統廃合を進めようとしていることに関連し反対するものである。

反対



井上芳弘 議員



長田謙一 議員

賛成

北条鉄道の列車交差設備の整備の実施設設計の予算であるが、これにより阪神間に勤務する方にとって利便性が高まり通勤客増加が見込める。播磨国風土記事業については、郷土に誇りを持つ子供たちの育成は、行政また我々議員の務めである。この誇り高き事業を野村萬斎氏、能楽笛方藤田六郎兵衛先生に加西市で指導していただけることは、加西市の文化発展に重要である。



中右憲利 議員

賛成

播磨国風土記事業について、1300年祭を機にできた野村萬斎さんほか能狂言の超一流のプロの方々とのご縁を大切に、また年々腕を上げていることも狂言塾の塾生たちにもっと活躍してもらいたいと思う。費用をカットするのではなく、その費用で他の自治体とも連携し、市内での活動もパワーアップさせて、より効果的に新しい文化を加西市に根づかせるような工夫をしていただきたい。



森元清蔵 議員

賛成

北条鉄道の交差施設整備は、通勤、通学をもっと便利にするための願であった。通勤乗客が増加するデータも本日出されており、各駅の活性化や鶴野飛行場跡の整備により、乗客数増加の効果も十分に予測される。便数が増加することで、乗客も増加することは明らかである。こういった中で、当然、調査費用、実施設計費用をつけながら今後の工事着工に向けて頑張っていかなければならない。



織部 徹 議員

賛成

北条鉄道設備等整備について、ホテル建設が市街地にされているのは、公共交通を利用する宿泊客があることを見込んでのことと推察する。それならば北条鉄道を利用する宿泊客があるということも大いに考えられ、朝夕には阪神間や姫路方面へのアクセスで、加古川線との便利な連絡が求められる。播磨国風土記事業については、すばらしい加西能やこども狂言を続け、加西の情報を発信することは意味がある。

議案第 34 号 財産の取得について

可決（賛成 11、反対 3）

用地提供に感謝し、社会教育、公民館の必要性は理解している。しかし、総合計画と連動した公共施設等総合管理計画には、4公民館は現状維持するとしている。その計画を無視し市全体の公共施設の議論もない。建設をするならば、市の最上位に位置づけられる総合計画や連動する計画を廃止、または変更すべきである。また、複合施設での検討や建設費用、将来的な見通しや具体的議論のないままの用地取得は、将来の負担を大きくするだけである。

反対



丸岡弘満 議員